

リサイクル援助事業 報告書

平成24年度

モンゴル国 トゥブ県
＜救急車寄贈サポート＞



寄贈された救急車を前に記念撮影
(中央が時天空関、両隣は陸送屋さん)



一般社団法人 日本外交協会

1. 本事業の趣旨

日本において、救急自動車・消防自動車・塵芥収集車といった特殊用途自動車は、自治体が所有・利用し、一定期間使用された後に更新・処分される。ただし、処分までの間、予備車や訓練車として保管・利用する事が一般的である。一方で自治体では、所有車の管理体制が徹底され、例え処分される車両でも状態が良いものが多い。開発途上国から、特にこのような消防・救急車両が不足している実情のため、ぜひ譲ってほしいという要請が多数寄せられている。

一般社団法人日本外交協会では、各自治体やその消防本部に対して、車両更新予定を調査の上、要請条件に合うものを譲渡していただけるよう、協力を依頼している。譲渡を受けた車両は当協会の責任において、引き取り・保管・整備・修理・輸送のプロセスに準じ要請国に送り届けることになる。その際、外務省と協議・調整の上、政府開発援助(ODA)の中の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」等を活用し、最低5年程度は役立ててもらえるような状態に整備して寄贈している。

2. 要請団体：モンゴル国 トゥブ県

3. 供出団体と車両：救急車2台

	供出団体	メーカー	車台番号	年式
1	横浜市	トヨタ	VCH380001863	平成15年2月
2	横浜市	トヨタ	VCH380001866	平成15年2月

4. 実施の経緯

<要請の背景>

モンゴル国（以下モンゴル）は、東アジア北部に位置し、西を中国（中華人民共和国）新疆ウイグル自治区、東と南を中国・内モンゴル自治区、北をロシア連邦と国境を接する内陸国である。日本の約4倍の国土に約270万人が暮らしており、広大な高原や移動式住居「ゲル」で生活する遊牧民などは日本でもよく知られている。

首都ウランバートルより南西に約180km、人口6,000万人のトゥブ県には、70年以上にわたり地域住民の診察を行ってきた病院がある。1936年に創設され、当時は2名体制、しかもいわゆる医師と呼ぶに相応しい人は、30年後の1970年代に入っようやく1名が配置されるという、極めて乏しい医療体制にあった。

2012年、日本国外務省「草の根・人間の安全保障無償資金協力」により新病棟が建

設され、人員も医師2名、看護師4名、アシスタントが10名と人員も拡充されたが、患者の中には遠路180kmの道のりを通院する患者も多く、緊急出動や病院間の移送手段に大きな課題を抱えていた。病院には2010年頃に導入された救急車（ロシア製ジープ1台）があるが、その出動頻度は年間で約300回にも及び、患者の状態によってはウランバートル市への長距離移送が必要となり、車両1台ではとても手が回らない。

また、近隣700kmもの範囲を3～4日かけて、妊婦や幼児を対象とした定期巡回診療も行っているが、その間は当然緊急出動ができない上に、悪路や雪などの環境によって救急車の使用はさらに制限される。

このような実情に対し、同病院からはモンゴル政府、各援助団体にも長年呼びかけているが、遅々として対策は進んでこなかった。



病院の保有していた救急車(ジープ)

日本の相撲界へ外国人力士を最も輩出している国としても有名なモンゴル¹。大相撲時津風部屋の時天空関(時天空 慶晃氏)²は、同国のアルタンブラグ郡出身、故郷に救急車が不足している現状を憂い、駐日モンゴル大使館を通じ横浜市に相談。同市消防局を通じ2台の救急車の無償提供を要請した。

2台の整備、輸送にかかる資金は、アルタンブラグ市病院から在モンゴル国日本大使館へ日本のODAである「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を活用、申請手続きにあたっては時天空関の実兄であるエンクサイハン氏が尽力された。

以上のプロセスに並行して、横浜市及びトウブ県は日本外交協会へ寄贈支援を要請、当協会を通してこの救急車2台を寄贈するに至った。

<整備・輸送について>

横浜市から車両を寄贈頂いた後、車両は当協会選定の整備工場にて、いわゆる法定12か月点検に準じるオーバーホールを行った。車両の内部にわたり点検・整備、消耗部品の交換、外装は板金・塗装を施し磨き上げ、立会いのもと仕上がり状態を確認している。ボンネット正面左側には、両国の友好関係を願ってクロスした国旗ステッカーを、側面には日本の援助として送ったことを示すODAマークを貼り付けた。(自治体に関する文字やロゴは全て削除済み)

2台は横浜港より船積され、出港した。港には時天空関も見送りに訪れた。(別途記事参照)

¹ 財団法人日本相撲協会 2013年 (7月の時点)

² モンゴル名 アルタンガタス・フチルバートル氏

5. 要請から実施までの流れ

平成 24 年	2月20日	時天空関、駐日モンゴル大使館、横浜市(市議)に相談
	6月	横浜市消防局から救急車2台の寄贈が決定
	9月	モンゴルにてODA「草の根無償資金協力」へ申請
平成 25 年	3月19日	ODA 資金贈与契約締結
	4月25日	2台の整備開始
	6月1日	横浜大黒埠頭から出港
	6月7日	中国(新港)から鉄道により内陸輸送
	6月14日	ウランバートル市到着

— 別添資料 —

- ・ 【国旗】モンゴル国
- ・ 【地図】モンゴル国
- ・ モンゴル国 基本情報
- ・ 国内報道記事
- ・ 受領書(原文)
- ・ 受領書(英文)
- ・ 受領書(和文)
- ・ 写真：現地引渡の様子

【国旗】



旗竿側の紋様は「ソヨンボ」と呼ばれる表意文字。仏典を書き写すために考案され、上から炎、太陽、月、棒と矢じり、巴形をした魚、棒と矢じりとなっている。

【地図】



(出典：外務省 HP、基本情報は抜粋)

モンゴル国 基本情報

面積	156 万 4,100 平方キロメートル(日本の約 4 倍)
人口	約 286 万 8,000 人(2012 年、モンゴル国家統計委員会(以下「NSC」))
首都	ウランバートル(人口 131 万 81,000 人)
民族	モンゴル人(全体の 95%)及びカザフ人等
言語	モンゴル語(国家公用語)、カザフ語
宗教	チベット仏教
主要産業	水産業、観光業、農業(ココナッツ、タロイモ、バナナ等)
名目 GDP	10271.4 百万米ドル(2012 年、世界銀行)
一人当たり GDP	3,673 米ドル(2012 年、世界銀行)
日本の援助	(1)無償資金協力 1026.39 億円(2012 年度まで) (2)有償資金協力 773.58 億円(2012 年度まで) (3)技術協力実績 365.81 億円(2012 年度まで)
主要援助国	日本、米国、ドイツ、世銀、IMF、ADB 等
在留邦人数	442 名(2012 年 10 月現在)
モンゴル国籍の 外国人登録数	4,837 名(2012 年現在)

時天空関がモンゴルに救急車

モンゴル出身で大相撲時津風部屋の時天空関が横浜市消防局の協力を得て救急車2台を母国へ贈ることになり、30日に横浜港の大黒埠頭ふとうで船積みされた。写真。



通じて横浜市議に相談。救急車の寄贈を受け、日本外交協会による車両整備を経て船積みされた。

6月1日に出港し、中国経由で同月末にはモンゴルの首都ウランバートルへ到着する。市や関係者によると、モンゴルの地方病院で救急車が不足していることを憂えた時天空関が、在日大使館を

ネット記事：MSN 産経ニュース「大相撲の時天空関 母国モンゴルに救急車を寄贈」

<http://sankei.jp/msn.com/region/news/130530/kng13053020100008-n1.htm>

(2013年11月19日)



大相撲の時天空関 母国モンゴルに救急車を寄贈 神奈川

2013.5.30 20:07

モンゴル出身で大相撲時津風部屋所属の時天空関が、横浜市消防局の協力を得て救急車2台を母国へ贈ることになり、30日に横浜港の大黒埠頭（ふとう）で船積みされた。6月1日に出港し、中国経由で同月末にはモンゴルの首都ウランバートルへ到着する。

市や関係者によると、モンゴルの地方病院で救急車が不足していることを憂えた時天空関が、在日大使館を通じて横浜市議に相談。市から廃車予定だった救急車の寄贈を受け、日本外交協会による車両整備を経て船積みされた。



**ТӨВ АЙМГИЙН
ЗАСАГ ДАРГА**

41100, Зуунмод, Төв аймаг
Утас: 70273025 Факс: 70272033

2013. 11. 15 № 01/1653
танай _____-ны № _____-г

**ЯПОН УЛСЫН ДИПЛОМАТ
ХАРИЛЦААГ ДЭМЖИХ
НИЙГЭМЛЭГТ**

Манай аймгийн Нэгдсэн эмнэлэг болон Алтанбулаг сумын Эрүүл мэндийн төвд бэлэглэсэн тоноглогдсон автомашинууд нь 2, 3 дугаар шатлалын эмнэлэгт зүрхний шигдээс, тархины харвалт болон осол гэмтлийн үед амь насанд нь аюултай 68 өвчтөнг дээд шатлалын эмнэлэгт хүргэхэд болон алсын дуудлагад нийт 8313 км т уулсан.

Эмнэлгийн яаралтай тусламж үйлчилгээг цаг алдалгүй шуурхай хүргэж, бидний ажилд үнэтэй хувь нэмэр оруулж байгаад талархал илэрхийлж байгааг хүлээн авна уу.

~~ЗАСАГ ДАРГЫН
ОРЛОГЧ~~

~~Н.МӨНХБААТАР~~

01 0247

My doc: A5 toot

受領書 (英文)

THE GOVERNOR OF TUV AIMAG

41110 Zuunmod, TUV aimag
Tel: 70273025, fax 70272033

2013.11.15

No: 01/1653

**THE SOCIETY FOR PROMOTION OF
JAPANESE DIPLOMACY-SPJD**

We have received fully equipped two ambulances in July 2013 from Society Promotion of Japanese Diplomacy-SPJD via Tokitenhu foundation. Those ambulances were distributed in the Altanbulag hospital and general hospital in TUV aimag center.

Those vehicles were extremely useful in our hospitals and it has been served for 68 patients for emergency calls and to bring them to higher levels of hospitals. Cars have being driven over 8300 km for emergency service since they are being here.

We thank you very much your great help to supporting important vehicles in rural hospitals and wish you all the best in future cooperation.

DEPUTY OF THE GOVERNOR TUV AIMAG

Signed N.MUNKHBAATAR

Translated by

N.ENKHSAIKHAN

Н.Энхсайхан
Tel: 88112031

受領書（英文和訳）

2013年11月15日 NO.01/1653

トゥブ県

Tel : 70273025, Fax70272033

トゥブ県 ゾーンモド 41110

一般社団法人日本外交協会 様

2013年7月、私共トゥブ県は、時天空財団を通し、日本外交協会より整備された2台の救急車を受領し、それぞれアルタンブラグ郡病院とトゥブ県総合病院に配属いたしました事をご連絡いたします。

2台の救急車はたいへん役に立っており、既に患者68人の緊急搬送や、上位の拠点病院への移送に活躍しております。その走行距離は、モンゴルに到着してから8,300km以上にもなります。

私共の地方病院に対して、貴重な救急車2台の寄贈をご支援頂きましたことに、深く感謝申し上げます。

今後とも一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いしております。

トゥブ県副知事

N. ムンクバートル

N. エンクサイハン英訳

(和訳は日本外交協会による)

写真： 現地引渡の様子

今回、救急車 2 台をモンゴル国トゥブ県へ寄贈する事業を支援しました。2 台の車両は横浜市消防局からモンゴル国のために無償で譲渡頂き、その整備・輸送にかかる費用は、日本政府のODA「草の根・人間の安全保障無償資金協力」(政府開発援助の一つ)による支援を受けた、日本の人々の善意に支えられた国際協力となっています。

<p>1 コンテナから出されたばかりの救急車 2 台</p>	
<p>2 メインストレッチャーを取り出し確認する時天空闊。トゥブ県病院長(右端)も積載品の充実ぶりに驚いた様子だった。</p>	

<p>3 2013 年はトゥブ県の成立 90 周年にあたり、その記念セレモニーの中で、救急車の寄贈式も行われました。</p>	
<p>4 挨拶をするトゥブ県病院の院長(中央女性)</p>	
<p>5 時天空関からは、朝青龍関から続く歴代モンゴル力士の手形板を寄贈 板を支える時天空関(左)とバヤルバト・トゥブ県知事(右)</p>	

<p>6</p>	<p>寄贈受入れおよび ODA 資金の申請に際し、現地で尽力された時天空閣のお兄さん(左から 2 番目)。</p> <p>左から黒木領事、エンクサイハン氏、清水武則大使、時天空閣</p>	
<p>7</p>	<p>関係者一同で記念撮影</p>	
<p>7</p>	<p>2013 年 3 月、「草の根・人間の安全保障無償資金」の供与契約書に署名するバヤルバト・トゥブ県知事(左)と清水大使(右)</p> <p>この時授与された資金により、寄贈車両を整備し、送り届けることができました。</p>	